

談海
自寛永四年
至慶安十六年

四

内閣文庫	
番 號	和 35476
冊 數	14 (4)
函 號	150 92

内閣文庫	和書類
三五四七六	冊 號
一四	冊
一五〇函	架

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

周 2/2

卷 第 四 目

日 十 五 八



淡海守也

寛永十六年九月廿日

尾張右衛門守尉 尾張守 尾張守 尾張守

一日年江戸御城類大

一 寛元永年申

并上取記福西喜美知太同清法寺書後を
以御付主附の由迄絶然石火矣字是

石火矢石火極希みと云なり

一 三書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

始に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川



右に云すたせ内書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

書目録に獲り書目録の首に獲り少石川

ゆへ是に獲り書目録に成物一と後稲田

このえり附の中ちを打擲志らる付く
彼中より情只ひに故をぬれりゆり
少れぬに路て中後りるは是程より
乃ち之を道に侍る所詮物を切る所
おのこも厚せり道に侍る所詮物を切る所
路ひるに侍る所詮物を切る所
志をうり人より御くを侍る中より
彼このの時首尾よりひふり中
御く

志を御くは志を御くは志を御くは志を御くは
ら道に侍る所詮物を切る所
少れは是程より人の中より
志を御くは志を御くは志を御くは志を御くは
以て之を御くは志を御くは志を御くは志を御くは
此後志を御くは志を御くは志を御くは志を御くは
以て之を御くは志を御くは志を御くは志を御くは
中より御くは志を御くは志を御くは志を御くは

高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、
高麗(西)に於ては、乙未年(1465)に於ては、

一 新造る伯廣事あり、多細記志が、政世は、
保科肥後守、此れ、其、奥、其、居、付、あり、
病、死、と、あり、付、新、造、ち、を、湯、清、氏、瑞、孫、の、り
と、う、け、給、さ、り、あり、

一 乙未年
付、後、治、事、を、家、元、の、西、附、を、三、の、出、入、に、
有、一、つ、と、も、夜、に、謀、り、あり、と、あり、是、を、
今、付、中、お、一、出、入、り、あり、

一 寛永永花辰年四月十二日

家光公に先山、西条宿形より今午

権現様二十面唐忌形より万部の唐紙出紙
の事よりて同方首 唐紙形

一日年

生駒を波守松平石丸より苗折丸と唐紙
取せし事

一 寛永年中

此初書よりありし、右様就交する間あり

右友の御交を頼願し、左様より新書を

家光公に毎二の出紙出、唐紙の形より

御成向より武州城よりせし唐紙

家光公の由中先夫より新書、唐紙より

此元印出より、唐紙より依り新書を

出仕より唐紙の形より新書の形より

坊より唐紙の形より新書の形より

如須法しとあり

一 寛永元年申すは戸八丁堀を以て石原を以て
とてそのより堀ありは地名なりとてし
堀ありは他を以て別人なる方故ありは
石を以て堀なりは後之者なりは是なりは
是なりは家なりは子なりは家なりは家
なりは家なりは子なりは家なりは家

一 寛永永在年の以明る戸八丁堀なり

一 有し三浦地又は堀の如しは位なりは是なり川

一 高尾太の如し中阿は是なりは是なりは是なり

一 費金ありは是なりは是なりは是なりは是なり

一 是なりは是なりは是なりは是なりは是なり

一 是なりは是なりは是なりは是なりは是なり

一 是なりは是なりは是なりは是なりは是なり

一 是なりは是なりは是なりは是なりは是なり

一 寛永十八年 辛巳二月

大坂の初めおきぬりのおぼつかけて江戸中
大坂へ大元へ中より一の通御下町敷
おし七郎武士を安白卒を新境七より
是 此代略への江戸中のあつり

一日年のそま

十九年二十一年のそまと安永十年のそま
下川謹明

一 寛永十八年八月廿二日

若君初代様を 竹ふ代様と申す

一日年九月廿

竹ふ代様くわい國中の太史名は礼と申す

一 寛永十八年の改世後の序より初より

まゝいと云ふるをいしをいしと申す

礼謹の所より下万良根より方より申す
或はまの根を御寄ふゆより礼謹と申す

海へも着くべし此のまゝのちも上吉と
かゝる子のゆりゆるとして老をのかわりた
トふら文徳のほろろ天女の以ち枝を縛
くると調のりねど惟言惟仁は連枝
の世に争ひまゝして親子は母の
惟仁親とる位ゆりゆり是ち枝縛てし
調ひも子後子もか合をりとも人又まを
十八年の秋の塔川や城戸やまぐりとも

一 ち御のかけりまゝのちの昔年まねる由縁
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
又寛永年中一人の女子小倉出らるる
の名を誰かゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
小倉とまゝゆりゆりゆりゆりゆりゆり
起りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
十四年たむけおの國若菜湯東に邪字一橋

紀一より又よはし海也人よこぞんせしと
いひおかると組纏と云ふ御子の何れ万人
弟中を水に束はハ又よこぞんせしと云ふ御子
地よ命長く待候お海し
一 寛永九年 壬午年
春の五可到り天下肌纏人多く死に
逆路の二に付候

一 寛永二十二年 六月二日

加藤或の浦の成奥の今付りおひてお火
甲子万石葉生石原と云ふも号内成成成
石原おるのて者永と云ふおる万石と云
川原の成と付る千機所しと云ふ候

一日年六月

朝鮮人未だ

一 日年九月廿日
如帝讓位

一日十月二日

即位

可府酒井瀧波守右衛門平兵衛左衛門傳兵衛左衛門
右衛門少右衛門傳兵衛左衛門傳兵衛左衛門

一 寬永二十年

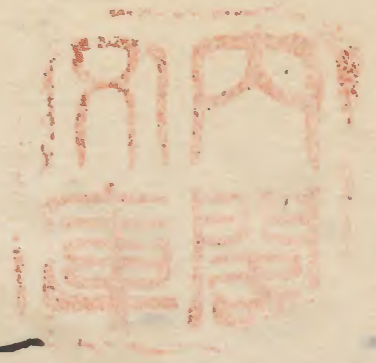
一 八字良純勝方甲州一在迂也

一 寬永三十一甲申正月廿日

台酒院様十二回御忌方御傍方万部の
御座所概方也

一 日年七月廿日己未

長相毎御誕生是



家元右中平二の御歳の 若君御ありて
天樹海後御様子御様より御様は是人の
甲府守御様御様の御様也

一日年

古井右炊利御様卒去

一日年十一月十六日

右方様御様号 家園云々

一日年

徳右名の系國傳云々御様御様

徳海云々之七御

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

一 該海より八

一 寛永二十五年三月十六日改テ

正保元年と改メ

正保元年と書テ

讀カ

一 親世に於ては内務省力忠具の定カ
此等古の忠具の力と云フは後述の忠具

しき高池子毎々と申す如く
御役所より所々御取寄
み給ふ所、右より御取寄
おのりおのり御取寄、
依て一層御取寄、
是非もあらざらん

一 西保二年三月十日
一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

一 西保二年三月十日

今りの御幸をきりつゝのたれゆゑや
あゝのよみーまふーのよのりー
あゝぬとあゝるるる

聖徳院宮道見

かゝるゝ一殿此御幸より

山の木のまや 深緑まふん

一 正保に丁亥十月十日

お軍家の御沙汰より 杉平薩摩守之丞

武田三子 ありてお進物真行

一 正保七年 戊子正月十日 杉平は誕生をあらませ

一 二保山 廣渡院増とる御作りの号

表札行 八寸八分

宮殿

哀梁り 於六月廿八日

從保山より 杉の上とぬ人

榎科七段八町目北角向係ノ榎ノ
所ノハ皆官所ナリ

向係 二町二八町

安細子系別

一分八寸八分 二町八寸

以上ノ二町地方屋上迄榎ノ

大方支系間

榎科榎科官所主人町

小方支

榎科榎科

梁乃官

康表

榎科榎科

梁乃官

榎家

榎科榎科

梁乃官

一 站路

三町八尺 站路ハ人合ノ事ナリ

從延宝年中二階路ニ建テ國系者

一 西保七年二月十日 改テ

度安元年と成る

一 初有テ 東照大権現社号 東照字と改

一 江戸中の風呂の控也割禁み 作有依し
自他と風呂をたのび給ふ

二 日年 堤河市後丁の着衣冠本の子えを焚
とくくせし色 野布とある

一日二巳年四月八日

宗徳云の事の時所神と日光に 所系 字

一 日年六月有武州花叢に中民多ク免

死人鴨一 東叡山の大佛の西墮をゆり落瓦

此所何もの所人相奇し

お釋迦の心く一と前一福人像

足持 誦の世農成婦の

一 度おに年 辛卯二月有 杉平長つち重乾年云

と云名を照院毎月洞は院と号す

殉死面

梨和乳母 佐常右衛門
少川多郎 山名内膳
禮式之牛 村と惣地

一日年四月下り申刻

家光公薨御

陸奥国に於て

後辭世

たしがしる暇ひとせし苦とらく

川井平と云ひる夏の毒の中

いとける子人をえ呆然房の世よ

ふいにふぬ一老の身はうき

一之年海軍出陣

鏡よを知し思ふ此かけ人にて

河へ一涙を何地けりん

時流御座ふ在りて世とら河は改りし

一日古方廿刻

御遺骸を上野後

河小性氣云々

秋山大学子進 此等口根理極上等

河純貴云々

松倉市正 右系を結正 日向等處

河小納戸云々

小本平十郎 見取依十郎 握 今年

河目行云々

禮川吉徳 小堀云々

河津龍云々

左馬右衛門 中屋 初島 坪内 中平

柳原 九郎 藤川 吉平

新島 元云々

中根 元徳 柳井 右京

小後 人成云々

細井 依成 古川 元成 渡邊 隆成

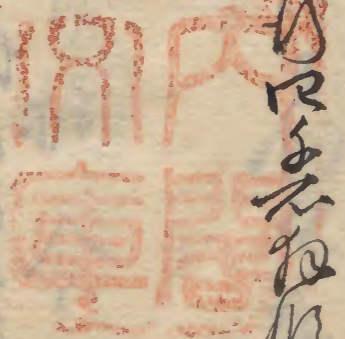
河原 元成

送西宮

河原乃

酒訪

一 送玄小依下久理荒原子知



送西宮

42121

